

## 透析医療現場における認知症患者の医療事故の傾向

長崎腎病院 長崎腎クリニック

○白井美千代 丸山祐子 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

### 【背景】

透析導入年齢の高齢化に伴い、認知症患者が増加している事が推測され、またそれら患者の医療事故の状況については把握されていない部分が多い。

### 【目的】

当院外来維持透析患者における認知症罹患の頻度と、透析関連事故発生の傾向を検討する。

### 【方法】

当院の65歳以上の高齢者で認知機能検査 (mini-mental state examination ; MMSE) を施行し得た透析患者42名を認知症 (MMSE21以下)・認知症疑い (22-27)・正常 (28以上) に分けた。また、発生事故の内容を機器準備関連・除水設定・注射および投薬に分け、認知症との関連を検討した。

### 【結果】

認知症は29%、認知症疑いは50%、正常が21%であった。認知症では注射および投薬関連の事故が多く(70%)、認知症疑いでは機器準備関連・除水設定が多く(33%)、正常者には傾向が見られなかった。

### 【考察】

認知症透析患者には注射や投薬など『患者に近い場所』での事故が多い可能性がある。また、認知症疑いにおいても除水設定などの『確認作業』に関する事故が多いことから、認知症・疑いそれぞれの視点からの事故防止対策が必要と思われる。